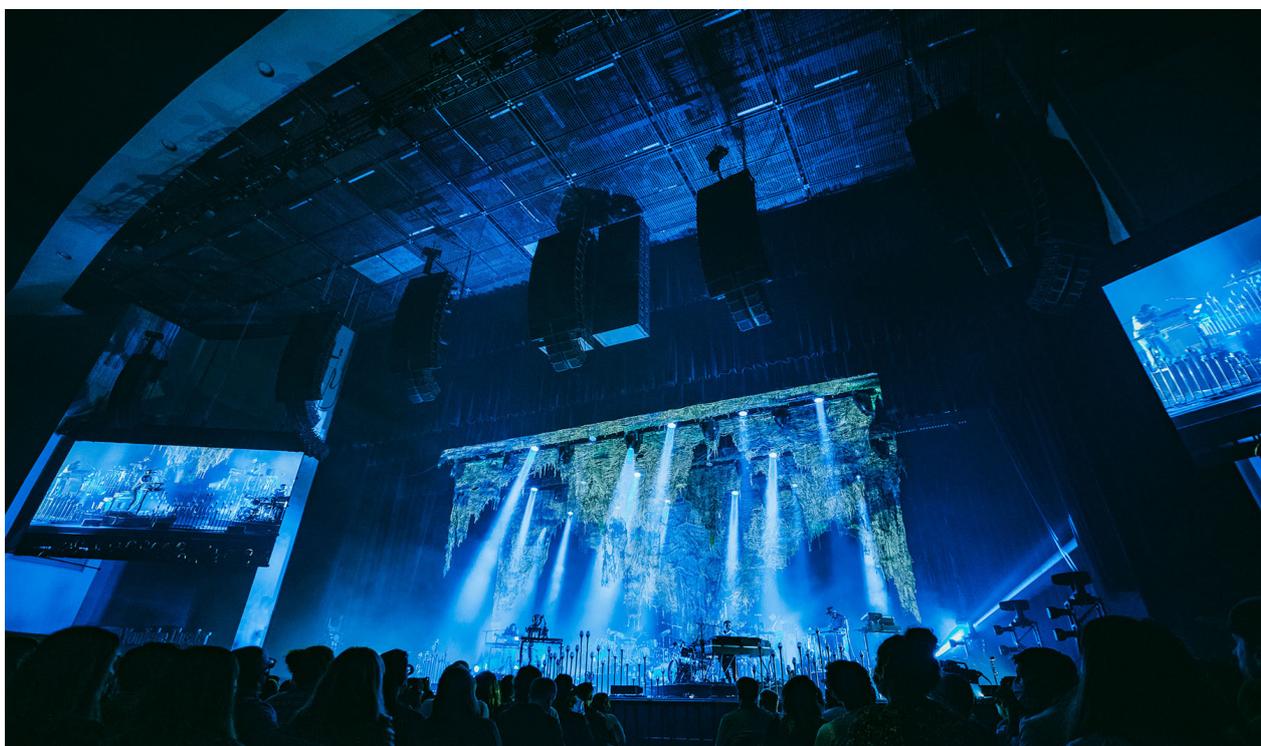


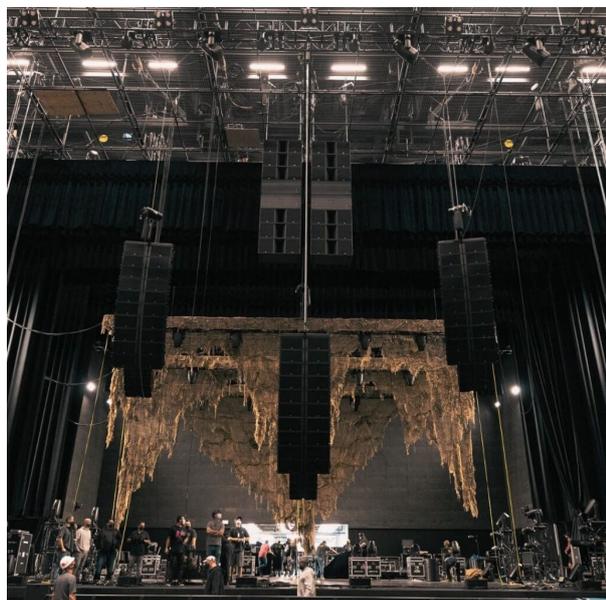


## L-ISA HYPERREAL SOUNDは、ロサンゼルスでのBON IVERショーで大きな話題を呼ぶ



2021年10月の2日間、ロサンゼルスのハリウッド・パークにある最新のYouTube Theaterで、グラミー賞を受賞した2ndアルバム『Bon Iver, Bon Iver』の10周年記念として、ボン・イヴェールの素晴らしい公演が2回開催されました。

しかし、この2日間の特別なイベントで感動的だったのは、劇場の未来的な建築とバンドの10周年記念だけではありません。ボン・イヴェールのライブは、音楽のディテールや楽器のひとつひとつを引き立てる没入型サウ



ンドシステムによって、超高解像度で聴くことができたのです。劇場に常設されたL-Acoustics 2.1ステレオシステムは、L-ISA Immersive Hyperreal 7.1空間オーディオシステムに強化され、180以上のスピーカーを数えました。フロントマンであるジャスティン・ヴァーノンの歌声を観客全体にパノラマのサウンドキャンバスに描きました。

非の打ち所のないオーディオがBon Iverの歌声に命を吹き込み、観客は劇場のどの席に座っても、聴覚的に敬意を感じ取ることができました。これは、「スイートスポット」に座っている人だけが素晴らしいサウンドを聴くことができるようなショーではありませんでした。一番近い席から一番後ろの席まで、すべての観客をクリアな音で包み込み、没入感のあるサウンドバスを作り出し、リズムカルな波動でリスナーを魅了することができたのです。

私たちはL-Acousticsの社員ですから、誉めすぎと思われるかもしれませんが。

でも、イベント後のプレスの話は、没入型オーディオが音の新しい未来であり、すべてのショーがL-Acoustics L-ISAで行われるべきだと、最もカジュアルな音楽ファンでさえ納得させるのに十分なものです。「まばゆいばかりの没入型サウンドスケープでショーを見てみると、没入型L-ISAの扱いを受けるべき他のアルバムについて考えるようになりました。」とForbes誌のSteve Baltin氏は語っています。



「Bon Iverの『Sincerely Grateful』公演は、オーディオマニアをニヤリとさせる、『L-ISA Hyperreal Sound』という超高解像度の空間オーディオを備えています。」とBillboard誌のKristin Robinson氏は言っています。

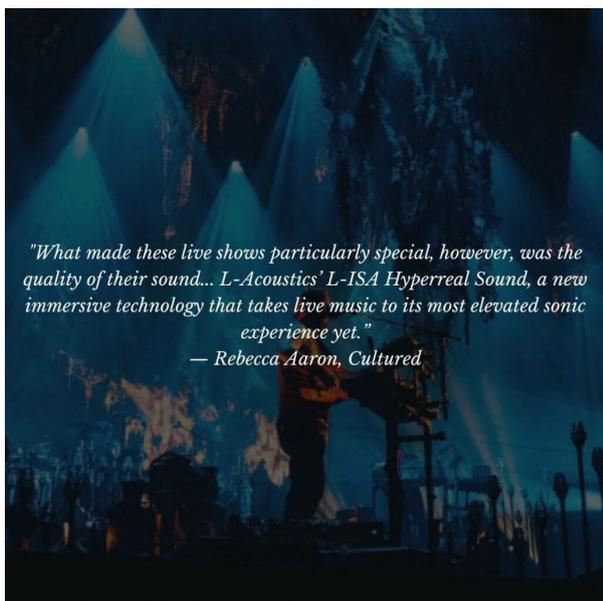
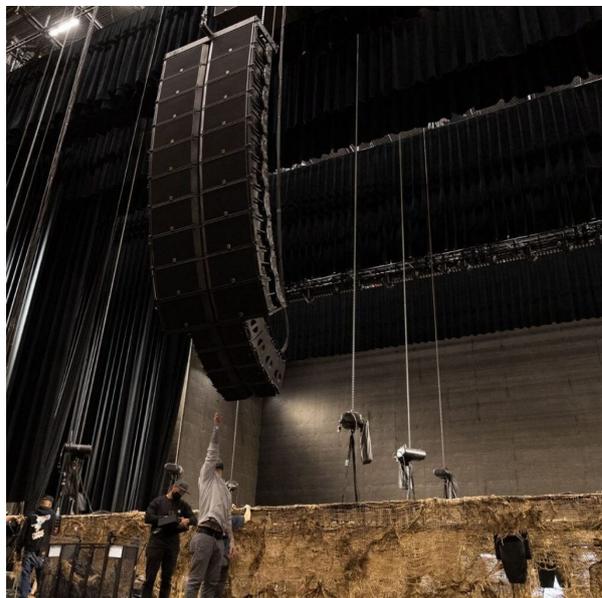
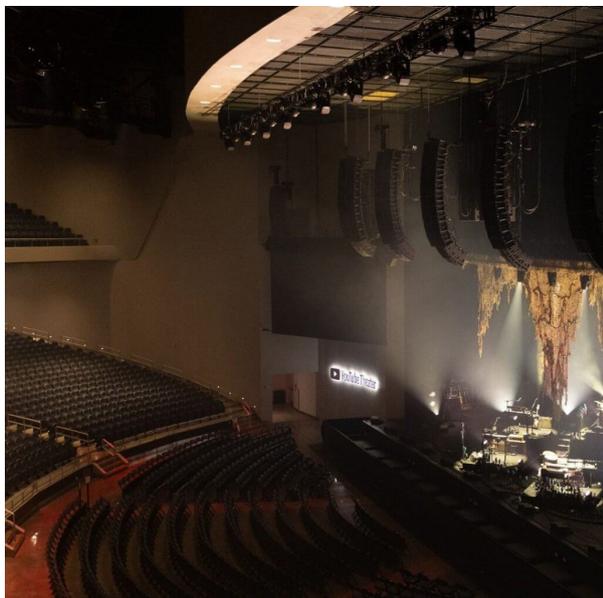
Cultured誌のRebecca Aaron氏は、次のように述べています。「これらのライブを特に特別なものにしたのは、その音質でした。L-AcousticsのL-ISA Hyperreal Soundは、ライブ音楽をこれまでで最も高度な音の体験に導く新しい没入型テクノロジーです。」

没入型ショーの報道や紹介の多くは、Cultured、Spin、Uproxx、Hollywood Reporter、Buzzbands、Pollstar、Billboard、Newsbreak、Forbesに掲載されています。

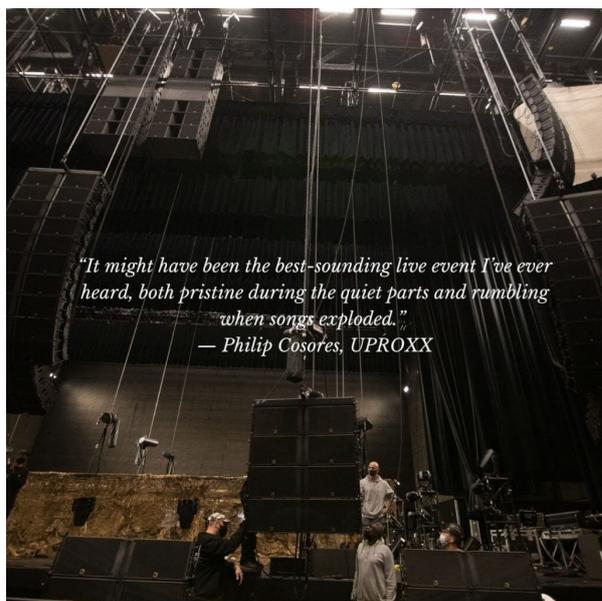
SoFiスタジアムと同じ傾斜屋根のキャノピーの下に組み込まれた新しいYouTube Theaterは、プレミアムゲスト用アメニティと最先端技術を組み合わせ、常設のL-Acousticsサウンドシステムで、あらゆるアーティスト

のパフォーマンスに最高の音響体験を提供します。

2万平米以上の広さを持つこの3階建て劇場のシステムは、合計57台のK2エンクロージャー、66台のKara II、28台のKS28サブウーハー、12台のコンパクトなKiva II、10台のA10i Wideで構成されており、システム全体を駆動する複数のLA12XとLA2Xiアンプリファイド・コントローラーは、2台のP1デジタルオーディオプロセッサが管理し、アナログバックアップを備えたりダンダン的なAVBネットワークで稼働しています。



*"What made these live shows particularly special, however, was the quality of their sound... L-Acoustics' L-ISA Hyperreal Sound, a new immersive technology that takes live music to its most elevated sonic experience yet."*  
— Rebecca Aaron, Cultured



*"It might have been the best-sounding live event I've ever heard, both pristine during the quiet parts and rumbling when songs exploded."*  
— Philip Cosores, UPROXX